リレーエッセイ

若者へのメッセージ59

プラネタリウム解説者　星兄

【第一回】全く興味のない業務命令

自分が好きな事を職業にするのは、果たして幸せなのかそうで無いのか。答えは分からないが、一つ言えるのは、好きな事を仕事にできている人間はそんなに多くないのだと私は思うのである。

出会い

私は昨年で星座解説歴40周年を迎えました。長いようで短く、短いようで長かった思いが交錯します。現在、「星兄の爆笑プラネタリウムショー」で全国を回っていますと、いろいろな方から「いつから星が好きになったのですか？　やはり子どものころから好きだったのですか？」などと聞かれます。中森明菜さんの歌で♬出逢いは　スローモーション♬というのがありますが、私とプラネタリウムの出会いはスローモーションというより、ちょっと早回しで、しかも突然の出会いでした。

体育大学を卒業した私は、スポーツ経験を生かした職場を求めて、当時オープン間もないスポーツ施設の充実していたリゾートホテルに就職しました。案の定、私はスポーツセンターに配属され、いわゆるホテルマンの仕事とは少し違い、スポーツ施設の運営に携わりました。当初は学生時代の経験を生かして、水泳などのインストラクター的な事もしましたが、基本的に受付中心の仕事でした。それだけでもホテルマンらしくないですが、もっとそれらしくないのが、なんと私の入社時に完成したプラネタリウムの運営もする事になったのです。理由は簡単で、ホテルの別館になっているスポーツセンターの2階にプラネタリウムがあったからです。

寝耳に水とはまさにこの事。体育大学出身の



星兄（ほしにぃ）
本名　田端英樹。1963年5月21日、滋賀県生まれ。1986年、ラフォーレ琵琶湖（滋賀県守山市）にホテルスタッフとして入社後、同年からホテル併設の「デジタルスタードームほたる」で星座解説を始める。笑いを交えた星座解説が話題となり全国各地のプラネタリウム出張公演や、イベントに出演。また、多数のミュージシャンから爆笑星座解説は絶大なる支持を受け、プラネタリウムでのコラボレーションを行うなど活動の幅を広げる。2015年からは、日本一の星空、長野県阿智村で開催されている「天空の楽園　日本一の星空ナイトツアー」にイベントゲストとして出演中。活動30周年に全国のプラネタリウムをめぐる「星のお兄さん47都道府県出張爆笑星座解説ツアー」を開催。活動35周年では阿智村に杏子・元ちとせ・佐藤竹善らのミュージシャンをゲストに迎え、一大イベントを成功。解説歴40周年を迎え、精力的に全国に笑顔を届けている。

新人社員に、いきなり理系の仕事をせよと言うのです。全く知識もないし、何よりも私はそれまで全く星に興味がなかったのです（苦笑）。

プラネタリウム笑（ショー）の誕生

当時のプラネタリウム上映機材は最新鋭のものが導入され、ボタン一つ押すだけで始まりから終わりまで全て自動演出ができ、知識が無くても話さずに済むので全く問題ないとの事。とはいえ、イベントなどでは若干の生解説が必要となり、結局はある程度の知識とテクニックが必要なわけです。人は興味がないと物覚えが如（い）何（か）に悪いかというのを痛感しました。カタカナばかりの星の名前や、どの星を繋（つな）いでもできてしまう三角形、登場人物が難解過ぎるギリシャ神話など、どれも中学・高校・大学とバドミントン一筋で生きてきた私には無縁な事ばかり。

しかし、思わぬところへ人生が動き出しました。最初から自分で天井の星に向かい矢印を指して説明するのは無理なので、先（ま）ずは、上司と二人三脚で上司が原稿を読み、私は矢印だけを担当するところから始めました。そんな事が6月から始まり、12月の冬の夜空の説明くらいまで季節が進むと、何となくあの星座がオリオンで、これが冬の大三角でと理解し始めます。すると上司が「もう一人でできるやろ」と、私にプラネタリウム業務全てを振ったのです！

そうなると、解説を聞いている客も話している当の私も、お通夜のような静けさが、関西人としてだんだん我慢できなくなってきました。以前から気になって仕方なかったオリオンを「オニオン」とボケたい思いがどんどん募り、ついにオリオン座の星座絵の代わりにタマネギの写真をドームにどーんと映し出しました!!結果は会場中大爆笑。これがやはり快感なのです。きっとお笑い芸人さんはこれにハマるんでしょう。星に興味が無かった人間が、星を使って人を楽しませる事にハマってしまったのです。

星のお兄さんの存在がバレる

この快感に目覚めた私は、それから日夜ネタ作りに励むようになりました。因（ちな）みに星座絵はつっこみどころ満載で、「なぜおおいぬ座とこいぬ座は親子だという説があるのに、絵は全然違う犬種なんだろう?」「なぜおとめ座は羽が前に生えているんだろう?」「なぜおおぐま座の足は前後でこんなに大きさが違うんだろう?」と次々と「つっこみ」が生まれてきます。そんな事を続けて2、3年した頃に、琵琶湖のプラネタリウムでとんでもない解説をしている人間が居るらしいと、ついに業界の方々に見つかってしまう事になるのです。

ある時、全国のプラネタリウム研修会で解説をしてほしいとの依頼が来ました。あまりにも烏滸（おこ）がましいのでお断りしたのですが、ぜひともと言われ押し切られて、ついに全国のプラネタリアンたちに「星のお兄さん」の存在が発見されてしまいました。当時私は（ホテルマンなのに）スポーツセンターのユニホームであるジャージでプラネタリウムにも行っていたので、客前で「これはもう『体操のお兄さん』で無くて『星のお兄さん』ですね」と語っていました。それがいつのまにか私の「通り名」と化したのです。そうして紆余曲折（うよきょくせつ）ありながら、全国のプラネタリウムの方々に「星のお兄さん」の名が広まり、施設のイベントゲストとして呼ばれるようになったわけです。

業務命令の先に

全く知識も興味もない「星座解説」という、何てことは無い一つの業務命令がいつしか私の人生の芯を担うことになりました。人生って不思議ですね。今では爆笑星座解説一本で、全国を『男はつらいよ』の寅（とら）さんのように行脚（あんぎゃ）しています。因（ちな）みに、そんな人間は、現在日本で私たった一人だけです。こんな私ですが、実は以前に、もう一つターニングポイントがありました。それはまた次回お話ししましょう。